

<p>12月27日 (日)</p> <p>詩編 137編</p>	<p>「どうして歌うことができようか。主のための歌を、異教の地で…わたしの舌は上顎にはり付くがよい／もしも、あなたを思わぬ時があるなら」(4～6節)。捕囚となったイスラエルの人たちが、囚われた状態でもなお、主の勝利を口ずさみつつ、異教の地で、主の救いの業に期待しつつ、礼拝をささげている。その姿に励まされつつ、私たちも礼拝をささげましょう</p>
<p>28日 (月)</p> <p>詩編 138編</p>	<p>「わたしが苦難の中を歩いているときにも／敵の怒りに遭っているときにも／わたしに命を得させてください。御手を遣わし、右の御手でお救いください」(7節)。主にささげる礼拝は、時が良くて悪くても主の御名を賛美するものなのだろう。苦難の中を歩むときも、主の御手は主が呼び集められた民、一人ひとりの手をしっかりとつかんでおられることに感謝して。</p>
<p>29日 (火)</p> <p>詩編 139編</p>	<p>「歩くのも伏すのも見分け／わたしの道にことごとく通じておられる。わたしの舌がまだひと言も語らぬさきに／主よ、あなたはすべてを知っておられる。」(3、4節)。主の救いの業は今に始まったわけではない。主がこの地を造られる前から、わたしたちの魂は主の御手にあり、聖書の時代から、今も同じようにあることを覚えたい。</p>
<p>30日 (水)</p> <p>詩編 140編</p>	<p>「主にわたしは申します／『あなたはわたしの神』と。主よ、嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。主よ、わたしの神よ、救いの力よ…先頭に立ってわたしを守ってください」(7～8節)。年の瀬に、主がここまでの歩みを守り導いてくださった日々を振り返る。主の業に感謝し、主の前に感謝をささげる時を大切に受けたい。</p>

<p>31日 (木)</p> <p>詩編 141編</p>	<p>「主よ、わたしはあなたを呼びます。速やかにわたしに向かい／あなたを呼ぶ声に耳を傾けてください」(1節)。主の年2020年の最後の日、主への感謝をいつもささげることができま すように。主への祈りを夕に日にささげることができま すように。主が、いつもわたしたちの祈りと賛美に耳をかたむけてく ださっていることを心に留めて。</p>
<p>1月1日 (金)</p> <p>詩編 142編</p>	<p>「わたしの魂を枷(かせ)から引き出してください。あなたがわたしに報いてくださいますように。」(8節)。主の年のはじめ。今年もコロナウィルスは私たちの生活を制限します。その中で も主に賛美と祈りをささげていきたい。一年の初めに、共に集 うことはゆるされなくても、主がそれぞれの場所でささげている 私たちの祈りと賛美を結び合わせてくださいますように</p>
<p>2日 (土)</p> <p>詩編 143編</p>	<p>「御旨を行うすべを教えてください。あなたはわたしの神。恵み深いあなたの霊によって／安らかな地に導いてください」 (10節)。「わたしはあなたを母の胎内に造る前から／あなた を知っていた」(エレミヤ1・5)と主なる神は語る。その神がわ たしたちの新しい一年を導き、わたしたちの進むべき道を必 ず備えてくださっていることを期待して歩みたい。</p>
<p>3日 (日)</p> <p>詩編 144編</p>	<p>「主をたたえよ、わたしの岩を」(1節)。詩編の人々は主なる 神を「わたしの岩、わたしの砦、わたしの避けどころ、わたしの 救い」と呼んだ。岩は、戦いの際に砦となって自分たちを守 り、エルサレム神殿の土台の岩のように揺ぎなく一番下で支 えてくれる存在だったから。新しい年、一人ひとりの「わたしの 岩」として伴ってくださる方に、共に賛美をささげていこう。</p>